

自己評価報告書

平成 23 年 3 月 24 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530306

研究課題名（和文） 工業化・都市化のなかの乳幼児死亡と妊産婦：近代日本の農村と都市の比較

研究課題名（英文） Infant mortality and maternity in the age of industrialization and urbanization

研究代表者

友部 謙一（TOMOBE KENICHI）

大阪大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：00227646

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：乳児死亡・主体均衡・工業化・都市化・家族経済

1. 研究計画の概要

乳幼児死亡率が生活水準を照らす生活環境指標であるという認識のもとに、それが（1）工業化（2）都市化という環境変動の中で、家族経済を経由してどのように変遷したのかを明治期から昭和戦前期にかけての日本を舞台に探る。

2. 研究の進捗状況

（1）工業化との関係では、主に青森県などの地方を舞台に主体均衡（市場生産と非市場生産の共存）を図る農家を舞台に乳児死亡への影響を計測した。主体均衡を図る中で農村家内工業の進展は農家の生活水準を所得面でも押し上げたが、乳児死亡も改善されたことが判明した。そのための統計データとして、町村別の分析を可能にするような乳幼児死亡（死産を含む）データ、妊産婦死亡データ、農村工業関連および農家経済関係の利用可能資料データの収集とそのデータベース化を行った。

（2）都市化との関係では、主に大阪市部を舞台に女工妊婦と乳児死亡の関係を、妊婦の栄養偏重と授乳から小児脚気との因果関係を発見した。農村から都市部工場へ出稼ぎに来た女工が白米中心の食生活により栄養偏重となり、妊娠・授乳を通じてその影響が小児脚気による乳児死亡に出現するというメカニズムが明らかになりつつある。そのための統計データとして、明治末から昭和戦前期にかけての大阪市を中心として、その周辺農村部を含めた乳児死亡の分析を可能にするような乳幼児死亡（死産を含む）や妊産婦死亡のデータ収集とその分析目的のデータベース化を行なった。とくに明治末から大正初期の短い期間で

はあるが工業化を経験した都市部では妊産婦の栄養不良から来る脚気罹患とその授乳による乳児脚気罹患が増大したが、その因果関係を分析するための疾病資料・データ（脚気が中心）の収集とそのデータベース化を行った。

（3）乳児死亡関係の資料・データとの関係では、全国の重要な統計データの収集とそのデータベース化を進めている。特筆すべきは、2010年11月に日本の乳児死亡の先駆者である丸山博教授（故人）の研究資料の提供を受け、その整理と分類を行なった。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

（理由）乳児死亡の府県別・市区町村別統計データの収集は当初の目標をほぼ完遂している。分析についても、疾病や死因との関係性への着目など、当初の目標をこえる事象も現れてきたが、おおむね満足いく結果となっている。

4. 今後の研究の推進方策

家族経済を舞台に工業化・都市化による乳児死亡への影響を総合的かつ多面的に把握しながら、その概念化をめざしたい。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

Hanashima, M. & Tomobe, K., "Building a Time-Series Database of Cause-Specified Death Statistics", *Annals of Historical GIS*, 2011, 12 月刊行予定（掲載決定）。査読有。

〔図書〕(計1件)

川越修・脇村孝平・友部謙一・花島誠人『ワークショップ社会経済史』(2010年10月、ナカニシヤ出版),236頁(126-186頁)。